

令和5年度益田地域保健医療対策会議 記録

(第1回医療・介護連携部会/地域医療構想調整会議関係者会議)

日 時：令和5年7月18日(火)

19:30～21:00

場 所：益田合同庁舎 大会議室

開会あいさつ 梶浦所長

- ・コロナ5類になり、市中感染の恐れがある中で、医療・介護の配慮に協力していただき感謝。
- ・医療計画の見直し、圏域の医療提供体制について検討をよろしくお願ひしたい。

議 事

1 第8次医療計画・医師確保計画の策定について(資料1)

- ・医療計画 検討のポイント・スケジュール(資料1-1, 1-2)：資料説明
- ・医師偏在指数の確認(資料1-3)：資料説明
- ・圏域の現状と課題(資料1-4)：資料説明

- ・慢性期病床の不足がある中で、慢性期疾患の管理・療養について、医療・介護連携が必要。
- ・病態や介護度に合わせた入院・入所のあり方検討が必要。
- ・80歳以上の高齢者の生活支援について検討が必要。
- ・住民啓発(地域の実情+ACP)が必要。

2 外来医療計画に係る「紹介受診重点医療機関の選定」について(資料2)

- ・益田赤十字病院
- ・益田地域医療センター医師会病院 を圏域で選定

3 島根県医療介護総合確保促進基金に関する支援事業の承認について(資料3)

- ・益田赤十字病院
- ・益田地域医療センター医師会病院
- ・益田市医師会 の3事業を承認

4 医療と介護の連携について(資料4)

- ・各市町介護施設調べ(資料4-1)：資料説明
- ・益田市医師会 医療連携推進コーディネーターの活動報告(資料4-2)：資料説明

・保健所から「益田圏域における医療機能の現状と課題」の報告（梶浦所長）（資料 4-3）

- ①病床機能の活用について、圏域の 5 病院はそれぞれに機能に合わせた役割を担っている。
高度急性期・急性期の機能は益田日赤。医師会病院の回復期（地域包括ケア病床）は診療所紹介の入院が多く、在宅復帰にもつながっている。津和野共存病院の回復期は他病院（益田日赤等）の入院が多い。六日市病院は夜間時間外の受け入れが多く、急性期から老健へ流れている。
- ②65 歳以上主要死因年齢調整死亡率を見ると、男女とも「がん」が多い。
65 歳以上脳血管疾患別・心疾患別年齢調整死亡率を見ると、男女とも「脳梗塞」「心不全」が多い。今後、慢性期機能の強化、特にがんや循環器疾患の緩和ケアにおける病診連携が必要。さらには脳・心連携。
- ③老衰の死亡場所の推移をみると、病院から老人ホームでの看取りも増加している。
- ④吉賀町の医療機能の変更。急性期から回復期・慢性期をまとめて見る機能へ。

意見交換 「益田圏域の医療・介護連携の推進について」

〈各病院における病診連携について〉

- ・益田日赤：救急を受ける立場を保持。急性期から回復期・慢性期の移行、転院について協力を。
- ・医師会病院：急性期の後方支援、在宅につなぐ機能、かかりつけ医へつなぐ役割を果たしたい。
- ・津和野共存病院：日赤の急性期後、回復期に受け入れている。緩和ケア、看取りに力を入れる。地域密着、町で最期まで看取る役割。
- ・六日市病院：介護療養病床の需要が減っている。どの病床機能を残すか、町と検討が必要。
- ・松ヶ丘病院：認知症患者を日赤でも対応頂いている。市の初期集中支援チームで早期に家族状況が把握できる。疾患センターでも、家族のレスパイト入院が出来つつある。特別養護老人ホームの入所も進んだが、高齢者病棟は常に満床。急性期の高齢患者が受け入れられない現状。

〈在宅医療の現状課題〉

- ・鹿足郡医師会：高齢者の支援、特に医療と生活支援が両輪で必要。医師会員の減少。耳鼻科・眼科の専門医が週 1 回でもあると住民が助かる。
- ・歯科医師会：資料 1-4 にある歯科衛生士不足、誤嚥性肺炎の予防は大切なこと。多職種連携強化が必要。骨粗鬆症内服による顎骨壊死が心配。発生予防と管理が大切。
- ・訪問看護：ステーションが少ない。人員不足で 24 時間体制が取れない。在宅に帰るために、訪問看護だけでなくヘルパーも不足している。
- ・ケアマネ：慢性期の受け皿として訪問サービス資源が少なくなっていることが課題。市として社会資源の開発をお願いしたい。

〈施設の現状と課題〉

- ・益田市医師会：せせらぎ、六日市園で 205 床の老健があるが、空床が目立っている。ショートステイの利用もあり空床ばかりではないが、くにさき苑でも看取りをしている。特別養護老人ホームや老人保健施設利用者の体調悪化者の行く場がないのも課題。

〈介護保険計画見直しについて〉

- ・益田市：8 期終了。9 期の策定検討中。
- ・津和野町：9 期策定から業者委託。実態調査の報告を受けて、地域データの分析をしている。
- ・吉賀町：ニーズ調査の結果分析中。9 期の見直し検討中。

〈住民代表として意見を〉

- ・益田の医療を守る市民の会：コロナで医療の「ゆとり」がなかった。病院・診療所・市町との連携が必要。また、人口減少が進む中で、しばらく高齢者が住む。いかに住み続けられるか仕組みづくりが大切。

その他

- ・新型コロナウイルス感染症第9波の備えについて : 資料説明

まとめ

〈松本委員長〉

- ・市民の会の話に出た「ゆとり」のこと。ヨーロッパでは85%で医療が回る。余力のある施設づくりが大切。医療と介護スタッフの不足は大きな課題。需給予測をはっきりさせながら、検討が必要。
- ・コロナの9波の準備は大切。お盆明けには沖縄のようなことになると意識した取組を。

〈梶浦所長〉

- ・病院の機能が、面として、どのように提供できるかが課題。
- ・施設の重症化の対応についても、課題と認識。
- ・市民の会の尾庭会長の話。「ゆとり」のことも意識して、県の議論に反映させたい。